



社会福祉法人愛知いのちの電話協会

# 名古屋いのちの電話

<http://www.nagoya-inochi.jp/>

社会福祉法人愛知いのちの電話協会主催

厚生労働省補助事業

市民講座

2015年2月7日

今池ガスビルにて

## 流氷の伝言 —アザラシの赤ちゃんと地球温暖化—

講師：小原 玲氏・堀田あけみ氏ご夫妻

### 小原 玲氏 講演

(要約)

私はかつては報道写真家でした。中でも、天安門事件で撮った戦車を止めているという学生の写真は、アメリカ「ライフ誌」に掲載され、優れた写真を集めた「ベスト・オブ・ライフ」にも選ばれ、名誉なことでした。でも、本当は学生が戦車に向かうのを止めていたものなのです。非暴力を最後まで貫き、報道の自由と民主主義を掲げていた学生の気持ちを伝えることができなかったという悔いが残っています。他に、イスラエルやソマリアなどでも活動してきましたが、危険度が増し、収入面でも割に合わなくなり報道写真家を辞めることにしました。

イスラム国で殺害された後藤さんのことですが、彼が伝えたかったことは、「難民」のこと。ごく普通の人たちが戦争である日突然「難民」になってしまうことです。力と力だけでは解決しない。相手を「憎まないで・・・」と。後藤さんが一



▲撮影中の小原 玲氏

番望まなかった「報復の連鎖」になってしまいました。

伝えられない辛さに耐えられなくなった頃、たまたまアザラシの赤ちゃんを撮りました。それまでのような理屈はいらない。感動だけで写真が撮れるうれしさを思い出し、見た人も喜んでくれました。たまたま写真の掲載された雑誌の発売日に、電車で「アザラシの写真」をずっと見ていた女性がいて、その写真を切り抜いて手帳に挟んでくれました。

今、アザラシを撮り続けるとともに、シロクマやマナテイという動物も撮っています。マナテイは、体が大きく誰にも襲われず、同時に草食で他の動物を襲いません。私の一番好きな動物です。他にホタルも撮っています。(名古屋市天白区の相生山緑地で撮ったヒメボタルの写真を提示)

流氷は海の凍った場所で、春には解けます。そ



ここで生まれるのがアザラシの赤ちゃんです。氷上では目がよく見えないので、お母さんのにおいをかぎ合います。氷上はマイナス10度。一日ゴロゴロしています。おっぱいを飲んで1日2キロ太っていきます。生まれたときは体長90センチ、体重10キロ。ものすごい勢いで大きくなっていきます。お母さんと赤ちゃんは、たった2週間しか一緒に暮らしません。その期間お母さんは絶食しなければならないからです。10日目ぐらいにお母さんから泳ぎを教わります。でも、2週間経ったある日お母さんは突然いなくなります。お父さんは子育てに参加しません。氷上に赤ちゃんがポツンと残されます。1日中鳴いています。お母さんが戻ってくることはありません。動くものをお母さんと思い追いかけるので、赤ちゃんばかり集まります。

そんな赤ちゃんを守ってくれるのが流水なのです。流水はアザラシの赤ちゃんにとって一番安全な場所です。天敵がいません。シロクマもシャチももっと北にいます。泳ぎのへたくそな赤ちゃんに、流水は泳ぎを教えているようにも見えます。生後4週間で黒い短い毛のアザラシに変わります。

泳ぎも上手くなり、もぐることや魚を採ることができるようになってきます。4週間氷があれば、赤ちゃんは自分で遠くまで魚を採りに行くことができるのです。太古から続くアザラシの赤ちゃんと流水の関係です。

アザラシの赤ちゃんを撮影して25年過ぎました。この間に見たのが流水の異変です。2000年ごろから流水が少なくなり、ボロボロの氷が見られるようになってきました。環境問題の転機は映画「不都合な真実」でした。

網走での気温と流水の関係図を作成した青田さんは、30年後には流水はできないとの見解を発表されています。

いま、環境問題で気になっていることがあります。「地球温暖化を防ぐには？」と聞くと、エコバックを使う、電気をこまめに消す、リサイクルをする、などと子どもたちは答えます。「これで防げますか？」と更に聞くと、「防げない」と答えます。子どもたちは気付きます。「世界中の人がやらなくてはいけない」ということを。

では、どのように生きていったらいいでしょうか。戦争がある世の中、飢餓がある世の中、地球温暖化がある世の中で、自分はどう生きるのかが問われているのではないかと思います。自然との共生で大事なことは「相手が何を望んでいるか」です。

根底に必要なことは「自然が好き」という気持ちではないでしょうか。この気持ちなくして地球環境を守ることはできません。

流水の伝言として伝えたいことは、「一番大切なのは好きという気持ちである」ということです。



## 堀田あけみ氏 講演 (要約)



▲講演中の堀田あけみ氏

16歳の時「1980 アイコ十六歳」で文藝賞を受賞しました。

大学は心理学科に進学しました。専門は「言語発達」でした。

もともと臨床心理学を志していましたが、実習を経てカウンセリングは怖いと思いました。実験心理学の方が私に向いていると思いました。

カウンセリングの授業では「聴く練習」をします。60分やるととても疲れました。内地留学の高校の先生が相手だったのですが「説教」されてしまったのです。

大学では、各教員が個人の研究室を持っていますが、これはとてもありがたいことです。学生が来て話してくれる場所だと思います。たくさんの学生が来てくれるようになりました。みんな「聴いてほしい」んですね。

私の持論のひとつは「反対の意見を持つ人と戦わない」です。私は「敵と戦う時間があったら、味方をねぎらう時間にしろ」という考えです。

相手の発言を遮った学生にはストップをかけます。相手の発言は最後まで聴かないとわかりません。反論もできないと思っています。

2年間のゼミで8割が聴くことができるようになります。

もう一つ学生に覚えてもらうのは「自分を受け入れてもらう」ことです。

小説を書きたいと思う学生はちょっと変わっています。研究室で勝手にお弁当を食べている学生もいます。トイレで食事をする子もいたみたいです。最近は減ってきました。そういう学生たちと向き合っている中で、「自分を受け入れること」の難しさを感じています。私もそういう人間でした。今も自分自身を受け入れるのは難しいです。

3人の子どもたちの母親であるということは、いろいろなお付き合いがあります。子どもの母親

たちとの付き合いもあります。3人目の子どもの友達の母親は30代で私は10歳以上上なので長老格です。

私から見るとみんなすごく頑張っているお母さんです。私は17歳で作家と言われて修士の学位を取るまでは好きなことをしてきました。博士論文の準備をしているときに、二男の障害がわかりそのままになっています。実はこのことも私が私を受け入れられていないところです。

自分のことを受け入れる魔法の言葉は「それでいいよ」なんです。

小さいころ私は「お母さんになりたい」と思っていました。小学校の時「私は作家になりたい」と言いましたら「できるかバカ」と言われました。卒業アルバムには無難に「お花屋さん・学校の先生」と書きました。作家になりたいと人前で言えなかったことから「自分を受け入れられない」私が始まっていたと思います。お母さんになったときも、なんか一人だけ取り残された感じがしたんです。

子育てをしているお母さんに「それでいいよ」「ありのままでもいいよ」と受け止めてあげたい。基本的には、「ありのままのあなたでいいよ」と受け止めてから、「ここを少し変えるともっとよくなる」と言うようにしています。

「自分のことを受け止めてください」と思います。まじめな方が「自分を受け止められなくなる」のだと思います。

小原はきっと、写真家は作家より偉いと思っています。そして、それはある意味では真実です。写真は翻訳が必要ないんです。小説は翻訳が必要です。言葉の壁は致し方のない場合があります。本当に日本語で小説を味わえるのは世界中で数パーセントです。そんな自分だからこそ、自分が受けとめられない自分がわかります。

いろんな人に「それでいいよ」という言葉をお贈りしたいと思います。

小原は自然の声を聴くことをお話しました。私は人の声を聴くことをお話しました。

### 愛知いのちの電話 2014年1月～12月受信状況ご報告

総受信件数 17,697 件 (前年 20,574 件)

通常ダイヤル (24 時間 365 日)	14,732 件
自殺予防いのちの電話 (厚生労働省補助事業)	790 件
無言電話	2,175 件

#### 通常ダイヤル (無言電話を除く)

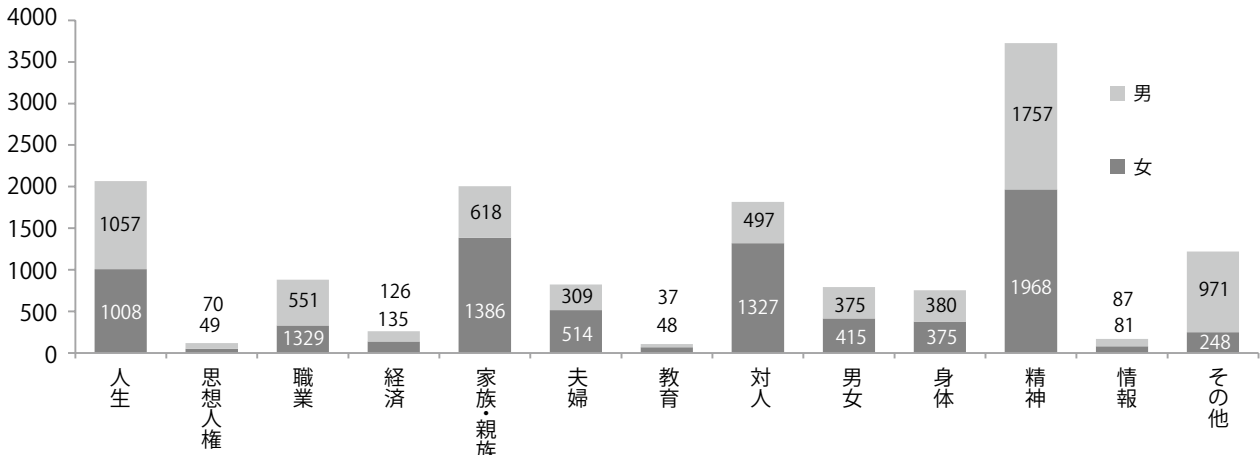


図 1. 内容別受信件数

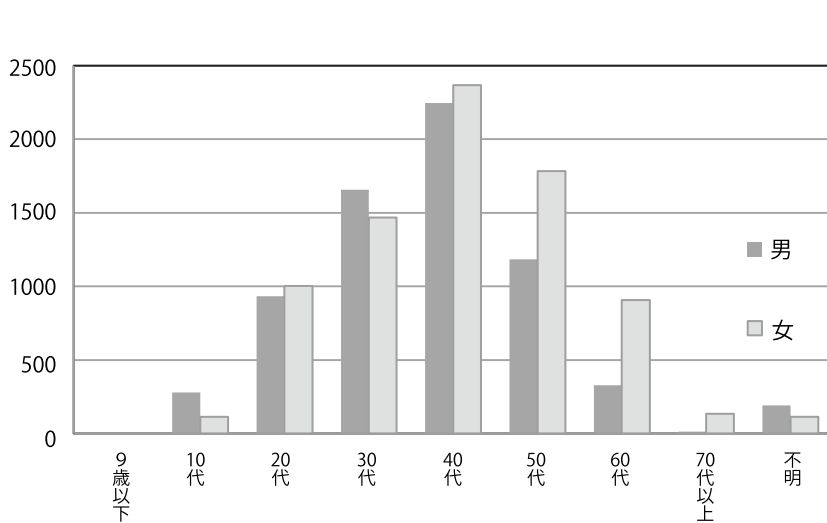


図 2. 年代別男女受信状況

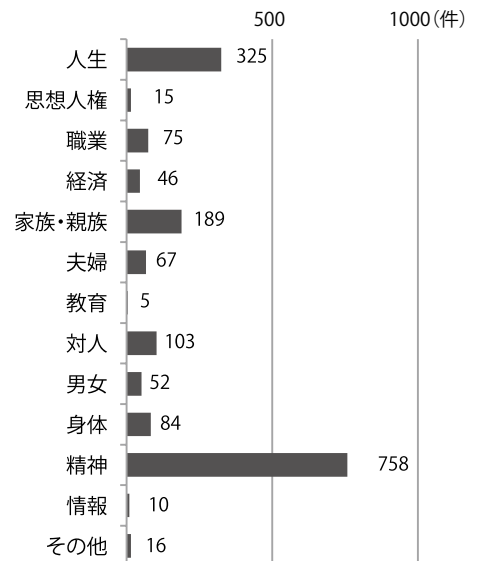


図 3. 内容別自殺傾向受信数

内容別でみると、トップ3は①精神②人生③家族です。「精神」の問題の相談は3725件で全体の25%と最も多く、内自殺傾向も43%を占めています。(図1)

次に多い「人生」では「生きがい・生き方」「孤独」、「家族(親族含む)」の場合は女性からの家族への不満が多い状況です。近年増えてきているのが「対人」問題についての相談です。対人関係での不和・トラブル・孤立などに直面した人間関係の相談・悩みが寄せられました。また、いじめひきこもり等々社会との関わりに困難さを感じ辛い思いを持った相談も含まれます(図3)

年齢別男女受信状況は多い順に女性は40代・50代・30代、男性は40代・30代・50代です。60代以上の男性の相談電話が急激に少ないことから、他人に相談することにためらいがあることがわかります。(図2)

\*「自殺傾向受信数」とは自殺に関連する相談の受信数を意味します。

全国自殺予防いのちの電話 (無言電話を除く) 790 件

(厚生労働省補助事業)

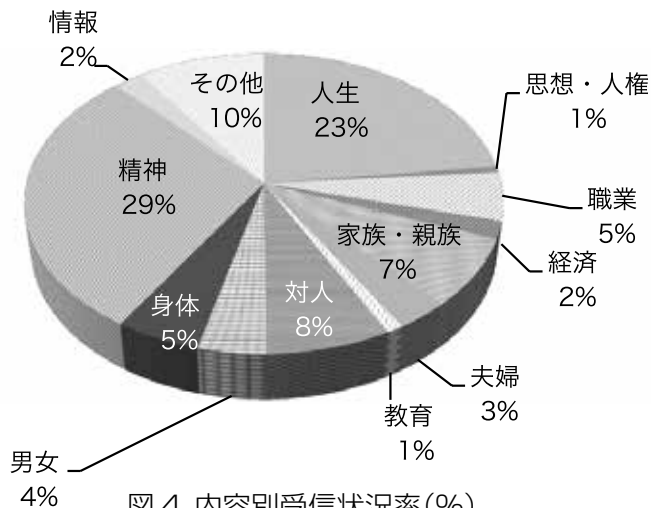


図 4. 内容別受信状況率(%)

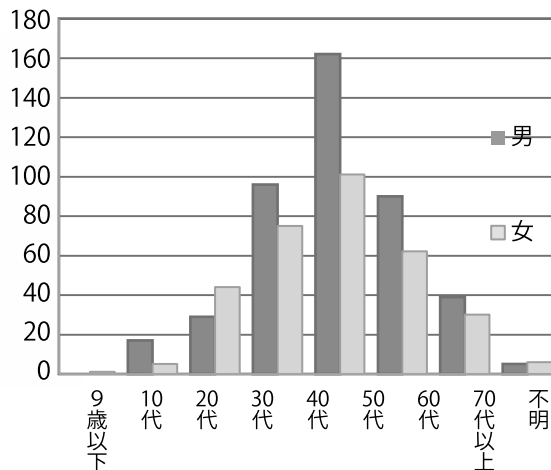


図 5. 年代別男女別受信状況

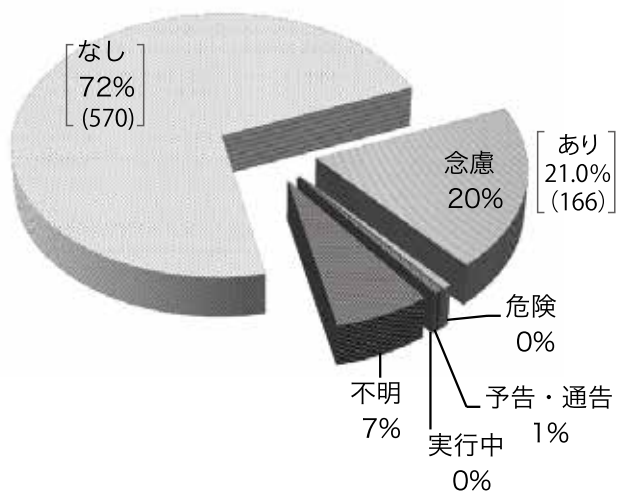


図 6. 自殺傾向の割合

「全国自殺予防いのちの電話」相談内容のトップ3は①精神②人生③対人です。精神の病、生き方・生きがい、孤独、対人関係上の不和・トラブル等の相談が多くあります。(図4) 男性459件、女性331件と年々男性からの相談が多くなってきています。年代は男女共に40代からが多いです。(図5)

受信件数790件のうち自殺傾向を有する電話は166件です。緊急度の比較的低い念慮が多いですが5件中に1件が自殺に関連する相談です。(図6)

フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」は2001年にスタートし、2007年までは毎年12月のみ7日間、行われてきました。2008年以降は毎月10日の午前8時から24時間体制で、全国48センター(50箇所)の「いのちの電話」が参加して行われています。

年間総受信数は2008年以降、27,000～30,000件台です。名古屋いのちの電話も「自殺予防いのちの電話」スタート当時から参加しています。

かかる電話は年々増えており、100本かかる電話のうち3本しかつながらない現状です。相談員は1件でも多くの電話とつながりたいとの思いで対応しています。

愛知いのちの電話協会主催

## 古謝美佐子コンサート ～文楽人形とともに～

### こころのうた いのちの舞



2014年11月29日(土)、名古屋能楽堂にて「古謝美佐子コンサート」が開催されました。愛知いのちの電話協会としては、久しぶりのチャリティーコンサート、一昨年より実行委員会を立ち上げ、出演者交渉、舞台キャストの人選、後援者依頼、会場の検討、予算設定から始まり、チラシ・ポスターの作成、配布依頼、チケット販売計画、当日のスタッフ役割など具体的に準備を進めてきました。

何より、「いのちの電話」にふさわしいコンサートにしたいとの思いから、出演者やスタッフと話し合いを重ね、文楽人形も加わって、ご観覧のみなさんに『こころのうた いのちの舞』を堪能していただけるコンサートを実現することができたと思います。

多くの方々からチケット購入のお申し込みをいただいたことも、本当にありがたいことでした。おかげさまで、大盛況のうちにコンサートを終えることができました。

古謝さんの迫力ある、心に染み渡る唄声、文楽人形のいのちを吹き込まれた表情、舞…。出演者の熱演には、ご覧いただいた方々からも、感動の声、感謝の声が多く寄せられました。

能楽堂という雰囲気、出演者、舞台スタッフ、音響、照明など、舞台の素晴らしさに恵まれ、関係者一同、心から感謝しています。

「いのちの電話」の力を感じたコンサートにもなりました。

コンサート当日は、おそろいの青いTシャツで、多くのスタッフがご観覧のみなさまのお出迎えや受け付け、会場案内、バザー用品販売にと活躍しました。

企画から2年近く、たくさんスタッフがかかわり、知恵と力を出し合い、多くの方々のご支援も得て、コンサートの成功につながることができました。

ご協力・ご支援いただきました皆様、本当にありがとうございました

#### 〈ご覧いただいた皆様からの

#### アンケートより〉

- いのちの大切さ、心の唄、本当に心を打たれました。
- 会場も内容も感動しました。大変良かった。
- 心を揺さぶられる魂の唄と文楽人形の力強い動きに感動しました。
- 沖縄の唄と文楽人形のコラボ、初めて見ました。人形の力強い動き、悲しみの表現、素晴らしかったです。
- 古謝さんの歌声から生命の力強さを感じ、涙が出ました。コンサートを開催していただいた皆様に感謝申し上げます。
- いのちの歌、本当に心を打たれました。
- 魂の叫びを感じました。響くものがたくさんありました。
- 会場も演者も内容もすべて興味深く鑑賞できました。素晴らしい演出でしたね。
- 本当に素晴らしかったです。感動し、「いのち」について考える良い機会を与えていただき、感謝します。

なつかしの広報誌 1999年広報誌6号より

## 眠らぬダイヤル始まる

社会福祉法人 愛知いのちの電話協会 理事長 長岡利貞

長い間、市民の皆さんにお約束してまいりました、名古屋いのちの電話「24時間体制」がこの5月1日から始まりました。これで都市の機能に必備とされている電話相談がいよいよ本格化したことになり、名実ともに眠らぬダイヤルが実現したわけであります。これは私たち関係者だけの喜びではなく、電話相談の本来の意義を理解しておられる方、これの実現を待ちわびておられる市民の方々の喜びであると思います。

振り返りますと十数年前、名古屋にも「いのちの電話を」という市民の声に励まされて、昭和区の一隅に呱呱の声をあげました（1985）。それから社会福祉法人化、全国研修大会の主管、それに日頃の地道な研修活動、これらはいずれ24時間体制への準備の期間でもありました。

ただその拠点がやや手狭であることや、24時間体制に移行するには困難な事情があったために、かねてから適地を他に求めてきましたが、格好な地がありませんでした。思いあぐねていましたところ、はからずも私たち「名古屋いのちの電話」の開設以来の後援者の方のご好意で、好条件でしかも交通至便の地に移ることができました。

24時間体制が出発したということは、ただ受信時間が延長になったということだけにとどまりません。いまや電話社会は大きく変わりつつあります。ポケットベル・携帯電話は言うに及ばず、電子メール・インターネットなどコミュ

ニケーションの方法はめまぐるしいばかりに変動しています。まずこの状況に対応していかなければなりません。また最近では公私にわたり電話相談を名乗る機関に簇生そうせいの感があり、その需要は飽和の状態にあるものとおもわれます。このような状況のなかにあつて、「いのちの電話ならではの電話相談とは何であるのか」がたつよく問われるのは当然であります。

いのちの電話が発足した当初、設立の目的のひとつに自殺予防を重要な役割と掲げ、危機介入をモデルとした対応や研修が重んじられてきましたが、昨今の利用者の実態をみると、このモデルではとらえることができないような複雑かつ困難な事例が増加していることがわかります。これらの新たな問題に対応するためには、一段と斬新な方法が開発され、それにふさわしい研修のありかたが問われることになりましょう。

24時間体制への移行を機会に、これまで積み残してきた課題を整理しまた検討し、その解決のために新しい一歩を踏み出すことができれば幸いです。

この移転と24時間体制への移行という大きな事業にたいして、多くのかたがたから物心両面にわたるご援助をいただきました。この紙上をお借りして厚くお礼を申し上げますと同時に、今後とも私たちの活動にたいして、ご理解とご鞭撻をお願いいたします。

 全国大会（群馬大会）報告 

2014年11月13日（木）～15日（土）の3日間、いのちの電話相談員全国研修会が群馬県で開催されました。会場は群馬県東部の磯部温泉にあるホテル磯部ガーデン。磯部温泉は「舌切雀伝説」発祥の地でもあり、ホテル館内には舌切雀物語のロボット人形があり夜遅くまで演じていたそうです。温泉ガイド（<http://www.annaka-city.com/onsen/>）によれば磯部温泉の泉質はナトリウム-塩化物・炭酸水素塩強塩を含む中性高張性高温泉、効能は健康増進、きりきず、やけど、皮膚病等と紹介されています。そのせいでしょうか？報告者の皆さんは全員、お肌はツルツルすべすべ、艶もあり、いつもより若々しく見えました。

今回の全国大会には名古屋いのちの電話からは10名の相談員が参加しました（内1名は事務局長）。

報告会は2015年1月27日（土）に開催しました。報告会参加者は、全国大会に参加した相談員が9名と報告の聴聞希望の相談員でした。限られた時間での報告会でしたので、全国大会に参加した9名の相談員には予め1人10分の持ち時間を割り当て、1人ずつ順番に報告して頂きました。

全国大会に参加された皆さんがまず驚いたのは群馬いのちの電話の相談員の気配りでした。名古屋から電車を乗り継いでJR高崎駅まで行くと、オレンジ色のチーフのアクセサリーをつけた人が群馬大会のポスターを手にして案内して下さり、スムーズな乗り換えができたそうです。また、会場に到着すると、ゆるキャラの「ぐんまちゃん」の出迎えもあったそうです。群馬いのちの電話の相談員の「歓迎」の気持ちが伝わってきますね。全国から集まった相談員たちも心が温まったのではないかと思います。

初日の基調講演は内山節氏の「自然と共にローカル（里）に生きる」。600～700人の相談員を前にソフトな口調で深いところに迫る内容を時間一杯話し頂く。内山氏は群馬県上野村と東京と

の二重生活をしており、「いのちはどこにあるのか」という問い掛けで始まり、西洋哲学と東洋思想の違いに触れながら、上野村での生活やそこに住む人々との関わりを事例にして話して頂く。「子供の頃の懐かしさを感じた」と報告された相談員もいました。基調講演のあとは懇親会。普段はいのちの電話の相談員の身分を明かすことができないが、全国大会では同じ志を持つ仲間ということで、「いつの間にかスウーと仲間の輪に吸い寄せられた」、「胸襟を開き話がはずんだ」そうです。

2日目は分科会。予め自分が受けた分科会を申し込んでおき、それぞれの小グループに分かれての活動です。名古屋いのちの電話の相談員が参加した分科会の一部をタイトルだけ紹介します。「かわりにくいかけ方の対応」、「発達障害を持つ方たちの困り感に寄り添う為に」、「継続研修を考える」、「悲しみや苦しみを通して生きることを考える」、「あなたはセンターを支えていますか？」、「自然の中で自分を見つめる」、「地域社会の現状と地域福祉の課題」、「性の多様性について」…。他県の相談員の方々と「親しく有意義な語らいが続いた」との報告もありました。

3日目は全大会で「いのちの電話のこれから」と題してシンポジウムが行われました。

今回9名の相談員に報告して頂いたのですが皆さんお話しするのが好きだということがよくわかりました。1人10分と時間を決めたのですが、10分前後で報告が終わり誰かが質問等すると、また話しが始まりなかなか止まらない。進行役としてはハラハラものの2時間でした。全国大会は誰にとっても楽しくて有意義な3日間であった、ということがよく伝わってきました。次回の全国大会は、2015年10月16日（金）～18（日）、鹿児島で開催予定です。ご都合のつく方はぜひご参加下さい。（バルの会 会長 S.K）

2015年3月末で5人の電話相談員が退任されます。相談員として、永年にわたり「名古屋いのちの電話」の活動を支え、多くのご指導をいただきました。退任にあたって、在任中の想いを綴っていただきました。

## 一杯の「ありがとう」と心からの感謝を込めて

相談員 M・F

私、いつ認定されたのかな～？

退任という言葉に正直戸惑いを隠せません。認定番号を最近確認して、20年も経ってたんだけ～！！本当に早かった！！まっしぐら、夢中、楽しかったし好きだった・・・

一度も辞めたいと思わなかったし、長期休暇もなく歩き続けて「達成感がある」という喜びに気付きました。

どれだけの「話し手さん」と出会ったのだろう。どれだけの「話し手さん」と話したのだろう。研修以外で研修以上に多くの学びがあり、「相談員」として成長する機会を頂いた。共に泣き心痛める事も多々あり、「話し手さん」のその後を知る由も術もない中「電話の限界」に気付かされた事。それを乗り越える事で少しずつ理想的な「相談員」に変えられていく。

認定された時、私達の出番はあるの？と本気で思った。当時、担当に入る前にチャペル内の聖堂

で必ず祈った。今日、出会う[話し手さんと相談員]にとり大切な出会いとなりますようにと！様々な相談内容、どのケースも（話し手さん）も不思議に嫌とか苦手に思うことがなく、愛しい大切な「隣人」として接することが目標でした。それには[相談員]側から電話切る事はしない・・・と心がけました。もうひとつの目標も、喜びのうちに事務局、電話室に行けた事です。

健康に恵まれたことと併せて、理解と協力のうちに見守ってくれた家族、先輩後輩ではなく「いのちの電話」という大きな家族の一員としての仲間の皆さんと出会えたこと。養成のスタッフとして関わらせていただく中、ともに学ぶ = 学びなおし = 力強い活力、支えを体感。「ありがとう」と「感謝」が沢山ありすぎて伝えきれませんが、さわやかに退任できることが何よりの喜びです。



## 退任にあたって

相談員 K・A

机の引き出しの奥にあった認定証を見ると、1993年、理事長相馬信夫と記されている。月日の経つのは早いもので、とうとう今日を迎えることが出来ました。

思い起こすと、相談員として20年余の長きにわたり、継続研修・スーパービジョンの先生方との意義あるすばらしい出会いがあり、いつまでも心に残る経験でした。

更には、相談に関わって、受話器の向こうの話し手さんから、驚くべき想いや生き様、生き方の多様性を学んだ。と、同時に、孤立孤独、言いようのない寂しさなどなど、日常的に抱えている大

きな苦しみを身に染みて実感する事が多くありました。不安な気持ちを受け止め、寄り添い、少しでも気持ちが落ち着き、安らぎへと変化し、かけて良かったと思っていただけるよう考えてきました。微力ではありましたが、私の人生で、この「いのちの電話」に関われたことが、とても勉強になり、今は達成感にも似た気持ちです。

皆様には、いろいろお世話になり誠にありがとうございました。これからも「名古屋いのちの電話」が、更なる安定と発展を続けていかれるよう心から祈っています。

## 花笑み&ありがとう

相談員 S・E

電子辞書とシャープペンシル一本、消しゴム一個をオレンジ色したケースに入れて、愛用のリックの中へ。リックを背負う。「行ってきま〜す。」と、玄関を出る。何時もの習慣、

空を見上げて、一呼吸「うん」とうなずいて。この繰り返しで今日まで参りました。あの日、何気なく広げて、目に入った新聞記事「いのちの電話相談員募集」を見つけたっけ。ボランティアの意味もよく理解出来ていないまま、軽い気持ちで応募した事を後々までも、恥ずかしく、悲しく、何て情けない人間だったかと、思い続けて参りました。その様なネガティブな思いの中、初期の講習を一応終え、次への段階での折、私たちを迎えて頂いた多くのスタッフの方々の笑顔、やさしい温かみのある微笑みでした。この微笑みは「花笑み」ではないかと、以前伺った事を思い出す。山に桜の花が一斉に咲く様を捉えて、素敵な微笑を「花笑み」と例えると言う事を。何と素敵でしょう、そうだ、この花笑みができるようになれば……。

なりたい……。それから……。そして、退任を迎えました。この間を振り返ってもあつという間の歳月でした。何より、充実した60代でもありました。うれしい限りです。いつの間にかアクティブになっていました。感謝する心、相手を思う心、温かく優しい思いやりの心等々、数えたら限がありません。本当に多くの事を学びました。また、いつの間にか、利用者さんからは力を頂いていました。今はただ感謝の言葉「ありがとう」の気持ちで一杯です。今の私は、仲間の皆さんから頂いた素敵な思いやり色の心を縦糸に、利用者さんから頂いたシックな落ち着いた力色を横糸に、そして私の思いも入れ込んで、人生模様の心の布を紡ぎ上げられたら何て……夢見えています。最後になってしまいましたが、これまで関わって頂いた事務局の皆様、相談員の皆様に感謝しつつ、ご健康とお幸福を心からお祈りします。本当に、ありがとうございました。



## 出 会 い と 恵 み

相談員 N・H

相談員になってもう20年以上になりました。なぜ、いのちの電話の相談員になったか。当時の私は仕事、趣味、教会のお手伝いなどに時間を使っていました。しかし、いつも何か社会貢献にも時間を使わなくてはいけないのではないかと感じていました。友達に「いのちの電話」の入門講座に行かないかと誘われ、興味半分の気楽な気持ちで出かけたのが、こんなに長い付き合いになるとは思ってもみませんでした。

講座は自分を見つめるという点でとても楽しかったと思いました。またそこで得た友、指導の先生方、相談をしてくる利用者の方々など自分の性格や考え方と全く違う人々にも出会いました。

それは、私にとって違う世界を見るようなものでした。

「受容と共感」をいつも考えて電話を聴くこと、各個々人には自分とは違う価値観、生き方があること。またそれを受け入れること。それは自分の考え方に幅を持たせてくれ、他の個性を認め受け入れることにつながり人間として幅を持たせてくれたのではないかと感じています。

また、24時間制に移行する時の相談員の皆様の情熱を忘れません。仲間旅行で行ったこと。同期の会の楽しかったこと。利用者さんに叱られ気づいたことなど。今は感謝、感謝です。長い間、皆様ありがとうございました。

ご援助ありがとうございます

2014年10月1日より2014年12月31日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共にご報告を申し上げます。(順不同・敬称略)なお、上記期間内に何度もご支援くださったかたもお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 小山 勇/財務委員会

**賛助会員 A**  
 榎本和 大野智彦 岡島博司 塩田保 出口美津江 戸田安士 長岡利貞 水谷宜美  
 会澤俊三 山下志津代 山下タカ子 鷗野秋信

**賛助会員 B**  
 伊藤まり子 植田望 岡部美代子 加藤明宏 加藤順子 加藤幸雄 河村公子 黒田忠嘉 後藤進  
 小室美奈子 近藤和子 塩野貞美 島津通 菅原美智子 杉山志乃 武田智彦 竹村絹子 寺田仁計  
 西村穰 早川定子 水谷真 柳澤幸輝 山口和子

**賛助会員 C**  
 浅野喜代子 飯塚重五郎 飯塚三千子 杵山達雄 金子紀子 河田いさを 菊池幸子 鬼頭洋子 小出芳典  
 佐藤尚江 田中良子 永井洋子 野村妙子 林温江 藤居直哉 北条とく子 本田恵実 水谷敦子  
 柳生球子 湯瀬美智子 山本幸江 加藤武

**寄付・個人**  
 浅野恵美子 秋田あや子 浅野喜代子 幾世明美 石原容子 石田きく江 井坂津矢子 石川とみ子 伊藤友行  
 今野良彦 上田きよ 江口志のぶ 榎本久美江 榎本正子 大洞陽子 小川邦泰 小野薫 加藤みゆき  
 神田喜代子 鬼頭洋子 小枝清子 小坂橋秀行 清水光雄 鈴木郁雄 相馬幸子 高尾利数  
 高橋榮一 田中良子 鳥居平和 豊田江美 永井玲子 野田義行 野村純一 福原満江 藤野宏之  
 前島千春 松岡朱美 松岡文子 水野真 宮木靖子 森田浩子 山田久美子 山本公子 吉田好枝  
 中西誓子 八木武志 加藤武 匿名6名

**法人会員・寄付**  
 愛三工業株式会社 天野エンザイム株式会社 株式会社東郷製作所 社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団  
 アイシン精機株式会社 新明工業株式会社 東朋テクノロジー株式会社 株式会社東海通信資材サービス  
 アサダ株式会社 大成株式会社 トヨタ車体株式会社 テンプスタッフ・ビーブル株式会社  
 株式会社大竹製作所 株式会社高木製作所 豊田通商株式会社 名古屋学院大学キリスト教センター  
 岡谷鋼機株式会社 武田機工株式会社 名古屋トヨペット株式会社 西川コミュニケーションズ株式会社  
 株式会社三晃社 中央精機株式会社 矢作建設工業株式会社 株式会社フジトランスコーポレーション  
 株式会社三清社 中部善意銀行 のぞみサークル 社団法人名古屋中村法人会  
 宝泉寺 東海東京証券株式会社

**寄付協力団体**  
 専念寺 聖心同窓会東海支部 日本キリスト教団熱田教会めぐみ会 日本基督教団岡崎教会  
 建中寺 日本キリスト教団中京教会 日本キリスト教団名古屋東教会 日本基督教団春日井教会婦人会  
 養念寺 日本キリスト教団半田教会 日本キリスト教団鳴海教会婦人会 在日大韓基督協会名古屋教会女性会  
 カトリック平針教会 日本キリスト教会名東教会友愛会計

**クリスマス募金・歳末募金**  
 相川義治 天野典子 石園和枝 伊藤まり子 伊東三七子 白田治子 榎本和 大橋玲子 岡崎強  
 杵山達雄 岡田喜美江 笠井康助 加藤厚子 清野敏子 小出芳典 河野登喜子 子安崇雄 坂浦正輝  
 澤村幸子 塩野貞美 志村澄江 下谷定司 杉藤はる子 永井洋子 中川則子 梨本将代 泰良真理子  
 高橋孝子 高橋由美子 竹村絹子 竹内宏子 武田京子 竹内宏子 谷口明 堤 肇 中野悦美  
 中谷聖子 西村済 坂東信吾 平井瑞子 平野泉 宮内英夫 森川信子 柳澤幸子 山口和子  
 山本秀樹 吉田加代子 匿名1名  
 新生幼稚園 日本キリスト教団豊山教会 幼き聖マリア修道会  
 金沢聖霊総合病院 日本キリスト教団豊田教会 カトリック半田教会  
 聖ドミニコ宣教師道会岡崎修道院 聖心の布教姉妹会鳴海修道院 カトリック聖マリア在俗会  
 愛知聖ルカ教会 日本聖公会名古屋聖マイ教会 日本キリスト教団愛知守山教会  
 カトリック日比野教会 日本キリスト教団南山教会婦人会

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

振込用紙を同封させていただきます。寄付金は、社会福祉法人として税法上優遇措置が受けられます。

- (1) 法人賛助会員 (年間 1口) A 20万円・B 10万円・C 5万円
- (2) 個人賛助会員 (年間 1口) A 10,000円・B 5,000円・C 3,000円
- (3) 一般寄付：随時受け付けております。
- (4) 夏季及び歳末の特別寄付：随時受け付けております。

口座名 : 社会福祉法人愛知いのちの電話協会  
 銀行口座番号 : 三菱東京UFJ銀行大津町支店(普) 477029  
 郵便振替口座 : 00810-8-53758

## 賛助会員コーナー リレーメッセージ

## 胸を打つ尊い善意

トヨタ自動車株式会社  
総務部管財・渉外室 担当課長 石川 誠 治



「名古屋いのちの電話」は、本年7月に開局30周年を迎えられるとのこと、心よりお祝い申し上げますとともに、長年の尊い活動に改めて深く敬意を表します。

私どもトヨタ自動車は、豊田英二最高顧問（故人）の夫人であり、慈善活動に大変熱心であった豊田壽子<sup>かずこ</sup>さん（故人）が「名古屋

いのちの電話」に関与しておられたご縁で、1988年より、微力ながら賛助の輪に加わらせていただいております。

毎日24時間、年中無休で、悩み苦しむ相談者の心に寄り添い続けるこの活動が、自費で研修を受けられたボランティア相談員により営まれている事実には、只々胸が熱くなるばかりです。弊社は今後も末永く賛助会員を続けさせていただきたいと考えておりますし、私自身も、こうした尊い善意の活動の存在を多くの人々にお伝えしていきたいと思っております。「名古屋いのちの電話」への理解と支援の拡大に少しでも貢献できれば幸いです。

## 事務局だより



事務局は、今、水仙の香りに包まれています。先日OBの方から届けられたものです。懐かしく嬉しい春のお便りでした。街路樹の早咲きの桜も開花間近。新しい年度がやってきます。

## 1年のまとめ

早いもので、2014年度も残りわずかとなりました。

継続研修グループによる今年度の公開講座もすべて終わりました。

今年度は、「自主研修の重視」ということで、どのグループもケースを持ち寄り、電話相談の基礎・基本に返り相談活動の質の向上を目指してきました。

相談員の不足や休暇など厳しい担当状況が続く中、ひとりひとりのがんばりが感じられるこの頃です。

## ベルの会より

全国大会報告会や退任予定者への感謝の会など相談員相互の親睦を深める催しが続いています。

4月の散策会、5月の座談会なども計画されています。

## 養成講座

24期養成講座は、2015年9月より開始予定です。募集は5月ごろからを予定しています。

PR用の公開講座も開設予定です。

## 相談員カムバックキャンペーンⅡ

連絡が途切れ、活動を休止されている相談員の方々へ「もう一度お力を！」とカムバックをお願いしています。数名の方から、ご自身の状況が変わり、「もう一度活動に戻りたい」との声が届いています。多くの方が、今一度相談員として活動を再開してくださることを願っています。

## ポスター掲示

3月の「自殺予防推進強化月間」を前に森村豊明会様の助成で作成した「いのちの電話」のポスターが名古屋鉄道、JR東海の主要駅に掲示されます。『自殺予防』の啓発につながるものと期待されます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

2015年3月

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号

事務局 ☎ 052-508-8381 FAX052-508-8384

<http://www.nagoya-inochi.jp/> E-Mail [info@nagoya-inochi.jp](mailto:info@nagoya-inochi.jp)

相談電話 ☎ 052-931-4343 携帯相談電話 NTT ドコモ東海「# 9556」

2015年3月1日発行

発行人 小山 勇

編集人 愛知いのちの電話協会事務局